

「港区史」					
刊本構成	時代別	基本構成			執筆者
		構成		節	
		章	節		
通巻1	自然編 (自然史・原始編)	第1章	港区の地形と地質	港区の地形の概要-東京湾に面した武蔵野台地東端の地形、港区の地下と地質、地形の変遷	久保純子、鈴木毅彦
		第2章	港区の気候と気象	世界や日本における港区の気候と気象、港区における気候・気象の特徴、気候の変化・変動、港区における気象資料と気象災害情報	高橋日出男
		第3章	港区の生物	港区の生物、港区に生息する生物	河野博
		第4章	自然の歴史と人びと		岡崎完樹、高山優
通巻1	原始 (自然史・原始編)	第1章	港区の考古学研究	近代考古学史の人びとと港区、大学と東京都教育庁の調査、行政調査の時代	岡崎完樹、高山優
		第2章	港区の旧石器時代	旧石器時代の自然環境、旧石器時代の暮らし、港区の旧石器時代遺跡、旧石器時代の港区域	渡辺文彦
		第3章	港区の縄文時代	縄文時代の自然環境、縄文時代の暮らしと文化、縄文時代の港区域	高山優、久保純子、齊藤進、渡辺文彦
		第4章	港区の弥生時代	弥生時代の自然環境、弥生時代の暮らしと社会、港区の弥生時代遺跡、弥生時代の港区域	高山優、久保純子、齊藤進、渡辺文彦
通巻1	古代編	第1章	港区の古墳時代	律令制以前の港区域、古墳時代のむらとくらし、芝丸山古墳と円墳群、港区の古墳時代遺跡、古墳時代の港区域	小口雅史、大西雅也、高山優
		第2章	律令制下の港区域	考古学から見た古代の港区域概要、武蔵国の設置、豊島郡と荏原郡、式内藤田神社	小口雅史
		第3章	桜田・御田郷と飯倉御厨	桜田郷、御田郷、飯倉御厨	小口雅史
		第4章	古代の港区域の景観	『万葉集』にみる古代の武蔵国、『延喜式』にみる武蔵国の物産、『更科日記』の竹芝物語	小口雅史
		第5章	平安末の港区とその周辺	平将門の乱、『今昔物語』にみえる武蔵国と港区	小口雅史
通巻1	中世編	第1章	鎌倉時代	武蔵七党、南関東の中世荘園	漆原徹
		第2章	室町時代	南北朝の動乱と南関東、小田原北条氏と南関東、港区の城館跡について	漆原徹
		第3章	中世寺院	東国の真宗と阿佐布門徒、浄土宗の展開と増上寺	永村眞、千々和到
通巻2・通巻3	近世編	序章	近世の港区域	近世のはじまりと江戸の成立、身分別居住による分節的構造、中心部からの展開、港区の地域ごとの特色、港区の幕末、近世遺跡の概要	岩淵令治、高山優
		第1章	初期の都市開発	初期の都市開発、江戸のまちづくり	岩本 馨、齊藤進、高山優、合田恵美子、鈴木毅彦
		第2章	武家	大名屋敷、旗本・御家人屋敷、愛宕下の旗本・武家人屋敷、赤坂の武家屋敷について、発掘された武家屋敷と町屋	宮崎勝美、岩淵令治、渋谷葉子、滝口正哉、合田恵美子
		第3章	寺社	寺院組織、寺院と檀家、大寺院の空間構造と社会(増上寺)、寺町の空間構造、神社の社会的展開、発掘された寺院跡	上野大輔、岩淵令治、伊坂道子、滝口正哉、中村琢巳、高山優、奈良貴史
		第4章	町人・村落	町の構造、町屋敷の諸相、商工業のにぎわい、場末地域、発掘された町屋	高山慶子、岩淵令治、滝口正哉、工藤航平
		第5章	文化	浮世絵を産む「場」としての芝居界隈、年中行事、寺社参詣・願掛け・信仰・納札・花見、祭礼、寺社の興行、盛り場の賑わい、絵馬・灯笼・天水桶・手水鉢、教育	大久保純一、滝口正哉、工藤航平、五十嵐和也
第6章	幕末	幕末の外国公使館、品川台場と沿岸部の諸藩邸内台場	富川武史、重田麻紀、吉崎雅規		

「図説 港区の歴史」								
刊本構成	時代別	基本構成			執筆者	通史編の章	構成の考え方と通史編との視点の違い	
		構成		節				
		章	節					
通巻1	第1章 自然	章扉		—			【構成】 本編に準ずるが、気象・気候はさほど取り上げることはない。この章に特徴的なテーマを設定し、図・写真等を多用して記述を展開。	
		総説			河野博			
		第1節	武蔵野台地と東京低地			高山優	第1章	【通史編との視点の違い】 通史編が、区内に留まらず周辺域・全国にも目を向けた解説となるのに対し、図説版は、伊皿子貝塚遺跡を核に記述内容をほぼ区内に限定し、また地形・自然とともに、コラムと併せて、できる限り現場での観察に誘える内容となるよう心掛ける。
		第2節	まちの中の自然			河野博	第3章	
		第3節	海辺の自然			河野博	第3章	
		コラム	海浜部を歩く			河野博	第3章	
通巻1	第2章 原始	—	引用・参考文献		—			
		章扉			—			【構成】 通史編に準ずるが、研究史は扱わない。この時代を代表するテーマを設定し、図・写真等を多用して記述を展開。
		総説			高山優			
		第1節	縄文時代1 海辺のすまい・里地のすまい			高山優	第3章	【通史編との視点の違い】 通史編が、区内に留まらず周辺域・全国にも目を向けた解説となるのに対し、図説版は、伊皿子貝塚遺跡を核に記述内容をほぼ区内に限定し、またコラムと併せて、遺跡現地に誘える内容となるよう心掛ける。
		第2節	縄文時代2 貝塚			山根洋子	第3章	
		第3節	弥生時代 発掘されたむらと墓			高山優	第4章	
通巻1	第3章 古代	コラム	〈調べる〉港区立郷土歴史館「貝塚の世界」		山根洋子			
		—	引用・参考文献		—			
		章扉			—			【構成】 考古学の調査・研究成果を中心にこの時代を代表するテーマを設定し、図・写真等を多用してストーリーを展開。
		総説			高山優			
		第1節	古墳時代1 海を差配した地方豪族の墳墓			高山優	第1章	【通史編との視点の違い】 通史編が、区内に留まらず周辺域・全国にも目を向けた解説となるのに対し、図説版では、伊皿子貝塚遺跡などの三田・高輪台の遺跡、芝丸山古墳・円墳群を核に記述内容をほぼ区内に限定し、またコラムと併せて、遺跡現地に誘える内容となるよう心掛ける。
		第2節	古墳時代2 発掘されたむら			高山優	第1章	
通巻1	第4章 中世	第3節	奈良・平安時代『更科日記』の世界		高山優	第4章		
		コラム	〈調べる〉古代の伝承地を訪ねる		高山優			
		—	引用・参考文献		—			
		章扉			—			【構成】 この時代を代表するテーマを設定し、図・写真等を多用してストーリーを展開。
		総説			今野慶信			
		第1節	鎌倉・南北朝時代 秩父平氏流江戸氏の広がり			今野慶信	第1章	【通史編との視点の違い】 図説版は通史編を参照しつつ、資料解説を中心とした記述とする。通史編との齟齬・矛盾が来ないように調整する。
通巻1	第5章 近世	第2節	南北朝・室町時代 分裂する支配者層と長者伝説		今野慶信	第2章		
		第3節	戦国時代 戦乱のなかの港区域		今野慶信	第2章		
		第4節	中世仏教史と港区域		今野慶信	第3章		
		コラム	〈調べる〉		今野慶信			
		—	引用・参考文献		—			
		章扉			—			【構成】 江戸時代のまちづくり、武家、寺社、町人など当時の様子を分かりやすく伝える他、幕末時の港区の様子を図や写真を多用に使用して説明する。
通巻1	第5章 近世	総説			西木浩一			
		第1節	まちづくり① 低地と海浜部の造成		高山優	第1章		
		第2節	まちづくり② 上水整備		西木浩一	第1章		
		第3節	まちづくり③ 土地に刻まれた災害史		高山優	第1章		
		第4節	武家① 江戸の大名屋敷		西木浩一	第2章		
		第5節	武家② 大名屋敷にらす人びと		西木浩一	第2章		
		第6節	武家③ 発掘された大名屋敷跡		高山優	第2章		
		第7節	武家④ 旗本のくらし		西木浩一	第2章		
		第8節	寺社① 増上寺		西木浩一	第3章		
		第9節	寺社② 墓		西木浩一	第3章		
		第10節	寺社③ 氏子と祭礼		西木浩一	第3章		
		第11節	寺社④ 発掘された寺院跡		高山優	第3章		
		第12節	町人・町人地① 町と町人		西木浩一	第4章		
		第13節	町人・町人地② 町方支配		西木浩一	第4章		
		第14節	町人・町人地③ 町の生業①—本芝浦・金杉浦の漁業		西木浩一	第4章		
		第15節	町人・町人地④ 江戸の交通を支えた人々		西木浩一	第4章		
		第16節	町人・町人地④ 町の生業②—鋳物師		高山優	第4章		
		第17節	幕末① 内海御台場		富川武史	第6章		
第18節	幕末② 江戸の外国公使館		吉崎雅規	第6章				
コラム	〈調べる〉		西木浩一					
—	引用・参考文献		—					

「港区史」					
基本構成				執筆者	
刊本構成	時代別	構成			
		章	節		
通巻4・通巻5	近代編	第1章	明治前期	土地利用(都市計画)、政治・行政、教育、経済、公安・衛生・社会事業(消防関係)、宗教、兵事	高柳友彦、中村元、松沢裕作、久保田哲、野村和、小山みずえ、三科仁伸(井奥成彦)、小島和貴、永田尚三、高田久実、門松秀樹、福沢真一、都倉武之
		第2章	明治後期	土地利用(都市計画)、政治・行政、教育、経済、公安・衛生・社会事業(消防関係)、宗教、兵事	
		第3章	戦間期(大正・昭和)	土地利用(都市計画)、政治・行政、教育、経済、公安・衛生・社会事業(消防関係)、宗教、兵事	
		第4章	戦時体制	土地利用(都市計画)、政治・行政、戦時の生活と区民、教育、経済、公安・衛生・社会事業(消防関係)、宗教、兵事	
		第5章	文化と文化財	文化、文化財	後藤新、都倉武之
通巻6・通巻7・通巻8	現代編	序章	戦後復興から国際都市へのあゆみ	概説、2つのオリンピックと港区、港区の街の変化、国際都市・港区、区民の暮らしの変化(座談会)	監修者、松林秀樹、中村仁、三田妃路佳
		第1章	港区の誕生	終戦と都制改革、東京都区域整理委員会の発足、各区の動向、港区の発足	新垣二郎
		第2章	人口と社会	戦後の人口変遷について、港区の人口、人口動態から見る港区の社会、人口と計画行政	浅川達人
		第3章	議会と行政	復興から高度経済成長下の港区(1945年～1974年)、区長公選と安定成長下の港区(1975年～1996年)、人口増時代の港区(1997年～2020年)	石上泰州、名取良太
		第4章	税財政	終戦から高度成長前夜まで、高度成長期、高度成長の終焉から安定成長期まで、バブル経済からその崩壊まで、デフレ経済期から現在まで	佐藤公俊、天羽正継、箕輪允智
		第5章	環境	生活環境、大気・エネルギー、緑化・生物	白川展之、小田勇樹
		第6章	防災と生活安全	港区と生活安全(警察・治安行政) 仮、消防・消防団、震災関連	福沢真一、永田尚三
		第7章	産業と労働	東京の経済とその概括的特徴、港区の一般的経済の動き、港区の産業と流通(現況)、港区の中小企業と行政の対応、港区の産業と開発	三田妃路佳、田口和雄、土屋直樹、前浦穂高、中村仁
		第8章	教育と文化	学校教育、社会教育、外国語学校教育、文化施設	進邦徹夫、村上祐介、中村仁
		第9章	福祉	戦後混乱期の概況、戦後復興期(福祉三法の整備)※凡そ1952年まで、高度経済成長期(福祉六法の整備)※凡そ1975年まで、高齢化社会(福祉の普遍化)※凡そ2000年まで、高齢社会、少子社会(福祉の市場化)※2001年以降	西田恵子
		第10章	衛生	生活衛生、保健予防、健康推進、労働衛生、水道・下水道事業	小島和貴
第11章	町域の歴史	町内会・自治会の再出発、区内町内会・自治会の実相、港区行政との関わり	新垣二郎		
通巻190・通巻	資料編	原始・古代・中世・近世・近代・現代 ※自然は通史編に掲載する予定			

「図説 港区の歴史」					
基本構成				執筆者	構成の考え方と通史編との視点の違い
刊本構成	時代別	構成			
		章	節		
通巻12	第6章 近代	章扉		—	
		総説		龍澤潤	
		第1節	東京遷都	龍澤潤	第1章
		第2節	激変する土地利用	高山優	各章
		第3節	近代初等教育の始まり	龍澤潤	第1章
		第4節	勝海舟と福澤諭吉	龍澤潤	第1・2章
		第5節	新橋停車場	龍澤潤	第1章
		第6節	芝・麻布・赤坂区の成立	龍澤潤	第1章
		第7節	富国強兵と近代工場	龍澤潤	第1章
		第8節	日清戦争と日露戦争	白石弘之	第2章
		第9節	軍都	白石弘之	第3章
		第10節	関東大震災	白石弘之	第3章
		第11節	震災復興とまちの変化	龍澤潤	第3章
	第12節	二・二六事件と防護団 我等が帝都は我等が護れ	白石弘之	第3章	
	第13節	東京空襲 焼夷弾の雨にバケツと火叩きで対抗する	白石弘之	第4章	
	コラム	〈調べる〉	龍澤潤		
	—	引用・参考文献	—		
	第7章 現代	章扉		—	
		総説		龍澤潤	
		第1節	終戦と闇市	初田香成	
		第2節	港区誕生	龍澤潤	第1章
		第3節	占領軍と街の変化	初田香成	第7章
		第4節	戦後復興と東京タワー	初田香成	第7章
第5節		東京オリンピックと街の変化	初田香成	序章	
第6節		漁業補償と内湾漁業の変化	高山優		
第7節		芝浦から発信される「都市のイメージ」	渡邊大志	第7章	
第8節		東日本大震災と街づくり	渡邊大志	第7章・第6章	
第9節	港区立郷土歴史館と文化財	高山優	近代第5章		
コラム	〈調べる〉	龍澤潤			
—	引用・参考文献	—			
年表					

※通史編の構成は、平成29年度第2回港区史編さん委員会に付議された構成としています。
※通史編の構成のうち項について省略しています。

※図説版の章・節タイトルは検討中です。